

インフルエンサーがフォロワーのエクササイズの意識と行動に与える影響に関する研究

スポーツビジネス研究領域

5018A070-6 刘夢 テキ

研究指導教員：木村 和彦 教授

第1章 序論

近年、すべての世代においてインターネット利用時間が増加している。インターネット利用時間のうち、10~20代女性はソーシャルメディアに費やす時間がほかの世代に比べ圧倒的に多いソーシャルメディア（SNS）とは、インターネットを利用して誰でも手軽に情報を発信し、相互のやりとりができる双方向のメディアである。代表的なものとして、インスタグラムがある。株式会社JTB総合研究所「スマートフォンの利用と旅行消費に関する調査」（2018）によると、インスタグラムの利用率は、男女全世代を問わず他のSNSと比べて、利用の増加率が一番高い。インスタグラムにおいてユーザーがよく見るコンテンツの中に、2015年調査から「料理」「旅行」「スポーツ」が50%以上増加した（ITmediaビジネス、2017）。

一方で、平成28年以降日本全国における運動実施率の調査結果から見ると、全世代の運動実施率は増加しているが、「成人のスポーツ実施率を週1日以上が65%程度」という目標とまだ遠いと言える。その中に、女性より男性の運動実施率が高いことが示された。以上のことから、本研究は、インスタグラムの女性利用者を対象に、エク

ササイズ”内容の閲覧前後のエクササイズ意識と行動の関係把握することにより、今後の運動実施率の向上に有用な知見を得ることができると考える。

第2章 先行研究

ソーシャルメディアはヘルスケア（McNeill and Briggs、2014）など様々な領域に影響を与える。ソーシャルメディアを利用するユーザーの中に、インフルエンサーという人たちが活躍している。彼らがSNSを活用することにより、有名人のような影響力を持つ人になる。インフルエンサーは自分の影響力によってフォロワーの考え方を左右する（Weeks et al.、2017）。インフルエンサーとフォロワーの関係を説明する要因としてパラソーシャル・インタラクション（PSI）があげられる（Frederick, Lim, Clavio, & Walsh, 2012; Horton & Wohl, 1956）。

Rubin and McHugh（1987）は、人間関係を築くことに影響を与える要因は、PSIにも適用できると考えた。また、フォロワーのインフルエンサーへのPSIは「信憑性」、「魅力」、「同一性」に左右されると見られる（Kruglanski, 2005）。

第3章 研究方法

本研究は、実験的調査（リサーチ①）と質問紙調査（リサーチ②）で構成される。リサーチ①では、1人の被験者に2ヶ月間（10月15日～12月15日）の縦断的な実験を行った（当初、3名で開始した実験であったが、計8回全てに回答した1名のデータとなった）。被験者に特定のインスタグラムアカウントを推奨し、精選したリサーチ②の項目を用いて信憑性、魅力、同一性、パラソーシャル・インタラクション、エクササイズ意図、エクササイズ行動に関する項目に回答を求めた。リサーチ②では、インターネット調査を通してインスタグラムの女性利用者を対象に質問紙調査を実施し、インフルエンサーのエクササイズ内容を閲覧後のエクササイズの意図と行動の関係を把握する。

第4章 結果と考察

まず、「魅力」「同一性」「信憑性」と PSI の関係は、インフルエンサーの「魅力」と PSI が高い相関があった。「同一性」は PSI を促進していた。また、「信憑性」と PSI には正の相関関係が認められた。PSI とエクササイズ意図では統計的に有意な弱い相関があることが確認された。しかし PSI とエクササイズ行動に統計的には有意な関係が見られなかった。エクササイズ内容有無がフォローへのエクササイズ意図と行動に与える影響の分析結果からみると、エクササイズ意図では、エクササイズ内容無しがやや高かった。一方、エクササイズ

行動では、エクササイズ内容ありの方が高いという、反対の傾向がみられた。

第5章 結論

「魅力」「同一性」「信憑性」はインフルエンサーへの PSI を左右することが確認できた。また、リサーチ①とリサーチ②の結果は、共に PSI は、フォロワーのエクササイズ意図に影響することを支持する結果を得ることができた。一方で、リサーチ①とリサーチ②共に、PSI はエクササイズ行動と直接的な関係が認められない結果となった。さらにインスタグラムのコンテンツとして、エクササイズ内容有りと無しでは、エクササイズ内容有りはエクササイズ行動との関係がみられたものの、エクササイズ意図と関係がないと考えられた。フォローしはじめた時期はエクササイズ意図の各因子と有意な相関が認められなかった。「激しいエクササイズと適度なエクササイズ行動」において有意な相関は認められなかった。しかし、「軽度なエクササイズの行動」と弱い相関が認められた。本研究の限界は、第一に、尺度の構成を再検討することである。本研究では「信憑性」の内的妥当性（ α 係数）の水準が低かった。第二に、アジアと欧米の文化的な相違を、質問項目に十分に活かすことができなかった。最後に、複数回の横断的研究や、本研究では1名のデータしか取れなかった縦断的研究（実験的研究）を拡充する必要がある。